

OneOsaka! 大阪維新の会 堺市議会議員

まとは 慎一 JOURNAL VOL.13

堺を新たなステージへ！



ご挨拶

4月を迎え新しい門出となる方々も非常に多い季節となりました。堺市の行政も新たな年度を迎えて皆様からお預かりしている税金をどのように使うかを議論する議会も開催された所であります。議会議員は市民の中から代弁者としてご付託頂いた者であり、使い道についてチェックし意見を言っていく、そしてその内容についてご報告する責務があります。今回のジャーナルでは主に予算や委員会質疑などについてご報告してまいります。

まとは慎一事務所 〒590-0103 堺市南区深阪南 342-12

TEL：072-230-1887 ・ ホームページ www.ishin-matoba.com



ポッドキャスト（ネットラジオ）始めました！

←iphoneをお持ちの方はこのアプリで「的場慎一」と検索



それ以外の方はホームページにてお聴き頂けます。お時間よろしければよろしくお願いいたします。↓

まとは 慎一

検索



大阪維新の会 堺市議会議員団としての動き

議員定数削減にて対立の議会となる 議員定数に関して維新と他政党が条例提案

堺市議会議員の定数について、今議会では我々**維新の会**と**その他政党**とが**激しく対立した議会**となった。堺市南区では人口減少が大きく、国勢調査の結果から市議会議員の定数を9議席から8議席へと1議席を減らさなくてはならない。故に私たち**維新の会**は**南区の市議会議員定数を一つ減らした8議席とする条例**を提案した。その他の**他政党は南区で減らした1議席を、同じく人口減となっている堺区へ付け替える条例**を提案。私たちの考えでは人口減少のため減らした議席を同じく減っている所へ付け替えれば**一票の格差**がさらに大きくなるとして他政党と対立致しました。結果としては1議席を付け替える他政党の条例が賛成多数にて可決された。

堺市行政で発生した問題について追求 報道された事案について原因究明、再発防止策など



報道でも取り上げられました「水道の埋め戻し土偽装問題」「アスベスト調査報告書改ざん問題」「消防艇燃料タンク水注入問題」などについて追求した議会となりました。我々としては原因究明、再発防止はもとより、一早い市民への第一報を行えていない事も追求。

まとは慎一 3/15(木) 健康福祉委員会での質疑

- ・ 独居高齢者、老老介護への支援について
- ・ 介護ロボットの普及について
- ・ アルコール依存症対策について
- ・ 動物の殺処分ゼロに向けて
- ・ がん検診無償化について
- ・ 健康意識向上推進事業について



堺市においては**高齢者世帯の4世帯に1世帯が老老介護の状況**にある。お一人暮らしの高齢者も増加傾向。それぞれの方々が抱えている問題把握と要望についてしっかりと把握し地域包括ケアシステムへ取り入れていく事を求めた。

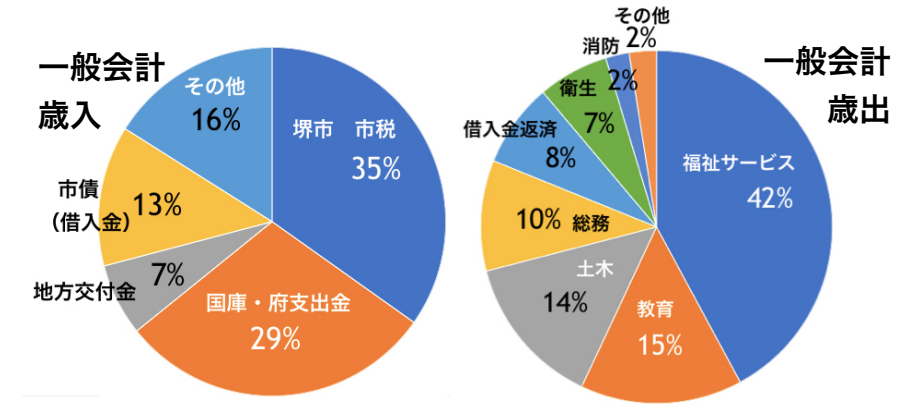
また日本において、2025年には**介護に携わる人材が約37万人以上が不足**するとされている。介護に携わる方々の処遇改善、外国人の受け入れもあるが、今後技術開発が進む介護ロボットを先進的に普及させるための体制作りや施策も必要である事を意見した。

アルコール依存症対策についてはギャンブル・薬物も含む総合的な支援を推進する計画を策定するよう求め、当局からは前向きに検討していく事を確認した。

動物の殺処分ゼロに向けては猫の不妊手術が有効である事を確認し、補助金以外の施策について他市事例なども提示し新たな取り組みについて求めた。また、**堺市は健康寿命・がん検診受診率について政令市下位**となっており、以前から求めていた、がん検診は次年度から無償化となった。予算措置がされたからには啓蒙活動もしっかりと行い、受診率向上・健康寿命延伸の結果を出すよう意見した。

堺市平成30年度予算概要

一般会計 4,184億円（前年比+33億円）
特別会計、企業会計含む全予算 7,440億円（前年比-158億円）



時代背景と市民が求めるものを反映できていない
(予算内容に対しての見解)

今、各地方自治体は2025年の人口減少期突入に向けて様々な準備を行なっているところ。超少子高齢化における社会保障費の増大も予想され、安定的に行政サービスを行うためには改革によって支出を減らし、観光・産業振興などで収入を増やす取り組みが急務です。また、住民サービスを低下させず支出を抑制するには新しい取り組みや知恵、また民間との連携など、これまでの行政スタイルから脱却していかななくてはなりません。今年度の堺市予算は大きなまちづくりのビジョンに乏しく、時代に逆行した施設運営、旧態依然とした補助金行政などで高コストへ向かう傾向にあり、かつ、民間活力やノウハウを活かす取り組みや新たな行政へ挑戦する施策にも乏しいと判断。時代の求める新たな行政への扉を開ける大切な時間を失しているとして予算案には反対致したところであります。